

オーストラリア 2025/26年度の園芸部門は190億豪ドルに達すると予測

[FreshPlaza 2025年9月3日](#)

ANZ銀行グループの最新の農業レポート(Agri InFocus)によると、2025/26年度のオーストラリアの園芸部門の粗生産額は190億豪ドルに達すると予測されている。これは、2024/25年度の182億豪ドルからの増加を意味し、生産額において園芸部門が肉牛と小麦を上回ることになる。

輸出額は44億豪ドルと予測され、年間40億豪ドル超の傾向が継続している。需要の大部分はアジア市場が牽引している。

ANZのアグリビジネス・インサイト担当執行役員であるマイケル・ホワイトヘッド氏は、「アーモンド、ブドウ、柑橘類、サクランボのいずれについても、オーストラリア産農産物は世界で最も急速に成長している市場において品質面で高い評価を得ている。その優位性を維持するには、水、労働力、バイオセキュリティへの継続的な投資に加え、サプライチェーン全体における効率と革新への注力が必要である」と述べた。

アーモンドは引き続き主要な園芸輸出品であり、中国及びインドが主な輸出先である。オーストラリアは現在、世界第2位のアーモンド生産国であるが、水資源の制約がこれ以上の成長を抑制する可能性がある。

生食用ブドウは中国、ベトナム、インドネシアからの需要があり、勢いを取り戻している。柑橘類生産者らは好調な輸出量を記録しており、マンダリンは記録的な水準に達している。タスマニア州及びクイーンズランド州の高級なサクランボとベリー類も、価格帯の高いアジア市場で需要が拡大している。アボカドの輸出は、国内の供給過剰の時期を経て回復傾向にある。

ニンジン、タマネギ、葉物等の野菜は、輸送時間の短さと食品安全に関するオーストラリアの立場に支えられ、東南アジア市場における存在感を強化している。

パンデミック以降、太平洋・オーストラリア労働移動制度(旧認定雇用主制度)を通じて労働力へのアクセスは改善されたが、賃金水準は依然として高い。肥料及びエネルギーのコストは2022年のピーク時と比較して緩和されたものの、依然としてパンデミック前の水準を上回っている。

オーストラリアの園芸部門を取り巻く世界的な環境は、増加するアジアの中間層による需要の高まりと、チリ、ペルー、南アフリカ、米国との競争によって形作られている。ミバエ、ミツバチヘギイタダニ等のバイオセキュリティリスク並びに気候の変動は、依然としてこの部門にとっての課題である。

ホワイトヘッド氏は、「この部門はかつてないほど強靱である。現在の課題は、オーストラリアの高い評判を守り、国内外の市場が提供する成長機会を捉え、常に先を行くことである」と述べた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)